

家庭菜園

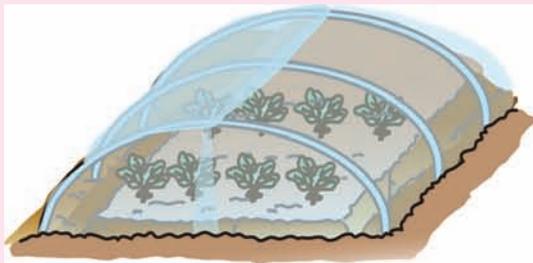
bigner's

2013年3月号

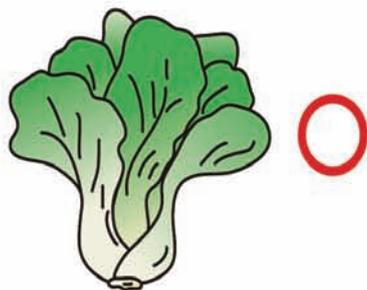
JA 滋賀蒲生町

煮物にしても色鮮やか

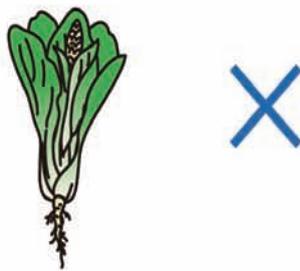
チンゲンサイ



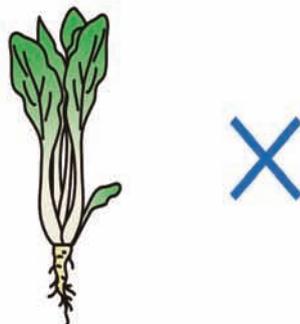
高温期の害虫防除には防虫ネットやべた掛け資材が有効



葉が長く下の方が膨らみ中ほどがくびれているものが優品



春早くまき過ぎると低温に遭いとう立ちしてしまう



夏株間が狭いと軟弱になりやすい

中国華中地方の原産で漢名は「青梗菜」。

戦後中国から導入、または過去のものが再導入された野菜は多いのですが、根付いたものは少数しかありません。その数少ない例がチンゲンサイなのです。

人気のもとほ、火を通すと緑色が鮮やかさを増し、煮崩れ、目減りが少なく、あくがないなど、煮物、炒め物、おひたし、あるいは漬物にと、使い道が広いからです。

冷涼な気候を好み、生育適温は15～22度ですが、暑さ寒さにも葉茎菜類のうちではかなり耐える方で、4月下旬～9月中旬まで幅広く種まきでき、育てやすいので家庭菜園には打ってつけです。

①畑にじかまき、②育苗して植え付けの両方できますが、長期間収穫を楽しむには①のじかまき、畑の回転を良くするには②の育苗とをお好みに使い分けできます。

じかまきの場合、まず全面に完熟堆肥、油かす、化成肥料を15cmくらいの深さに耕し込み、準備しておいた畑に、くわ幅より広めの18～20cm幅のまき溝を作り、2～3cm間隔に、満遍なく種をまきます。覆土は5～6mmぐらいとし、夏に向かう栽培では防乾、防暑のために、その上に切りわらまたはもみ殻などを薄く敷いておきます。

発芽したら本葉2～3枚の頃4～5cm間隔に間引きます。その後も逐次間引き、最終株間を夏は16～17cm、冬は14～15cmぐらいにします。まき溝の幅を広くしておいたのは、間引きながら徐々に収穫し、長い間収穫を楽しむためです。

生育中15～20日に1回、列の両側に肥料をばらまき、くわで軽く土に耕し込むようにしながら中耕します。

高温期にはアブラナ科野菜共通のコナガ、ヨトウムシなど害虫にやられやすいので、べた掛け資材やネット類を被覆したり、薬剤散布したりして防除します。

下の方の葉に隙間ができるので、泥はねにより葉が汚れやすいですが、これを防ぐにはフィルムマルチが有効です。この場合にはセルトレイ(128～200穴)に種まきし、本葉5～6枚の苗に仕上げた穴開きマルチを敷いた畑に植え付けます。じかまきの場合には穴開きマルチフィルムに、1穴4～5粒まき、育つにつれて間引き、草丈4～5枚の頃1本立ちにします。

種まき後春は45～55日、夏は35～45日、冬は50～65日たち草丈が15～20cm、150gぐらいに育ったら収穫適期です。夏には株張りが悪く軟弱なものになりやすいです。株間を広く取り、肥切れさせずにしっかりしたものに育て上げましょう。